

自衛隊の即応性をPR 神奈川地本長が企業主に講話



講話中の本部長

神奈川地方協力本部（本部長 高田 充1海佐）は、9月26日（金）、厚木レンブラントホテルで、「自衛隊の災害派遣」と題した講話を行った。

講話は、「神奈川倉庫協会相模会」（倉庫管理事業の企業、数十社で構成）から50名が参加し、東日本大震災における自衛隊の活動状況について写真を中心に説明するとともに、自衛隊の即応体制や災害派遣の流れなどについて紹介した。講話の合同を利用して、予備自衛官制度や援護制度の説明、また、昨年移転した厚木募集案内所のPRなども行われ、講話の終了を告げるアナウンスが流れると会場は大きな拍手に包まれた。

神奈川地本は、「今後も、講話などの機会を通じて自衛隊の活動状況を積極的にPRし、企業主等との連携強化に努めていく」としている。

航空ショーで昨年入隊した隊員と再会



エア・フェスタ浜松2014

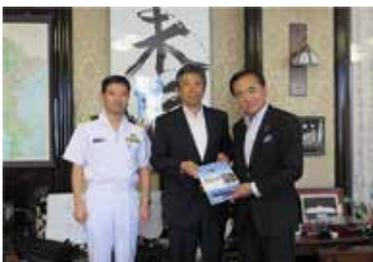
神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 酒井1海尉）は、9月28日（日）、厚木愛甲父兄会が主催し、募集対象者等50名が参加した「エア・フェスタ浜松2014」の見学ツアーを支援した。

エア・フェスタでは、F-15J戦闘機、C-1130H輸送機などによる展示飛行を始め、UH-160救難ヘリ、救難搜索機U-125Aによる救難訓練展示などが行われた。最も観客の注目を集めていたのはブルーインパルスで、真っ青なキャンパスに鮮やかなスマイルの絵を描いた時、ひととき大きな歓声が上っていた。

会場では装備品の展示も行われていたが、昨年入隊した隊員がその説明要員として勤務しており、偶然的な再会となった。この隊員がツアーに参加していた募集対象者等に対し、堂々と説明し、立派に受け答えをする姿に接し、嬉しさを隠せなかった。

厚木募集案内所は、「今後も、各種イベントを通じて募集対象者等に対し、自衛隊の魅力を伝えていくとともに、先輩隊員が元気に勤務している姿も見せていきたい」としている。

神奈川県知事に防衛白書を説明



神奈川地方協力本部（本部長 高田 充1海佐）は、平成26年9月29日（月）、神奈川県知事に対して南関東防衛局が実施した「平成26年版日本の防衛」（防衛白書）の説明に同行した。

神奈川県は、今後発生が予想される首都直下地震や南海トラフ地震及び火山噴火等の災害に対する県民の防災意識が高く、「ピッケレスキューかながわ」をはじめ、各種防災訓練において自衛隊、警察・消防等、関係機関との連携強化に努めている。

神奈川地方協力本部は、今後も南関東防衛局と連携し、防衛省・自衛隊の諸活動に対する更なる理解と協力を得るため、自治体とのパイプ役を担って行くとしている。